

# 山形県技術士会だより

巻頭言(新しい組織—公益法人化と技術士全国大会) 山形県技術士会会長 本田 康夫

## ハイライト 平成21年度定時総会



### 目次:

巻頭言	1
平成21年度定時総会報告	2
平成21年度事業活動計画表	3
技術士試験を振り返って	3
倫理観について思う	4
平成20年度 秋季現場研修会	4
3支部交流会・理科支援事業報告	5
七五三掛地区地滑り災害現状	6
高等専門教育の現状と課題	7
お知らせ・編集後記	8

山形県技術士会会員の皆様、お元気で活躍のことと存じます。本会も設立されてから23年目を迎え、関係各位及び会員の皆様の御指導・御協力により、会員数も110名を越すまでに成長致しました事について、厚く御礼申し上げます。

しかしながら、組織の中身や活動の実態についてはまだまだ多くの問題がありますので、皆様の御協力を得ながら一歩・一歩前進して行きたいと考えております。

さらに、今般の社会情勢、特に公共事

業の落ち込みによる建設関連業界の低迷は、私達の多くがそれに関係しているだけに大変憂慮しているところであります。と言っても、私達に出来ることは限られております。

この苦境を抜け出すためには、会員相互が出来る限り色々な情報を共有し、一人一人の技術士が誠実に業務を処理し、地域に密着した活動を行って地域社会の信頼を得ることであろうと考えております。

また、何時の時代でも科学や技術は「自己修正的」なものですから、日頃の研鑽が重要です。特に、今日は各種の計測技術が著しく進んでいることもあって、昨日の常識が今日の非常識になっている事例も数多くありますので、特に若い人達には周囲をリードする心構えで日頃の研鑽をお願いします。さらに、技術者には総合的な判断を強く求められている場合も多く、「専門馬鹿」(嫌いな言葉ですが)では通用しない部分も数多くありますので、それぞれの専門を離れた科学技術の知識の吸収も重要と考えております。

恐らく、現在強く求められている技術者は、「地域に密着して、持続可能な、安定した社会の構築に役立つ技術者」であります。一人一人がこの様な幅広い技術を習得する事は容易な事ではありませんが、技術士会として、皆さんの知識を総合し、有機的に活用すれば、「社会の安全・安心に寄与出来る技術者集団」になるものと考えております。

10月に仙台で開催される「第36回技術士全国大会」はそのような観点から各専門分野の垣根を取り払った、五つのテーマの分科会に絞って計画されました。

大きく、1、「食の安定的な確保と安全な供給」 地域活性化の発掘・2、「資源・エネルギーの有効利用と循環型社会」 持続可能な社会を目指して・3、「地震災害に備え、地域社会の安全向上に貢献する」—減災技術や減災活動の仕組みづくりについて・4、「技術のマネジメント」 技術による安全・安心な社会への貢献と技術の継承・5、「中立構成の堅持と自立的な規範」 技術者の信頼向上について—の五つがそれであります。

今回開催される全国大会は、テーマの多様さ、中身何れをとっても旧来の全国大会とは、多少趣きを異にしております。必ずや、会員の皆様にとって、実りの多い大会になるものと確信しておりますので、出来るだけ多くの会員のご参加を希望します。

さらに、数年前から検討されてきました「公益法人化」についても、6月に開催された総会において2010年春の申請を目指して進める事が決定しました。その場合、定款には今まで記載の無かった県技術士会の組織も含まれることとなります。従って、県技術士会と本部・支部との関係も多少は今までとは多少異なったものになる可能性があります。具体的にどうなるのかは流動的ですが、少なくとも、公益法人としての責務が加わり、財務・機関・情報公開などの面では厳しくなることは間違いありません。それが、支部・県の組織・運営にどのような影響が出るのかは、良く判りませんが、会員の皆様と知恵を絞って、県技術士会を盛り上げて行きたいと願っておりますので宜しくお願い致します。

平成21年度の定時総会・研修会・交流会が平成21年7月3日(金)山形グランドホテルにおいて盛大に開催されました。

定時総会では平成20年度事業報告、決算報告並びに21年度事業計画、予算案の審議がなされ、何れも原案通り可決承認されました。

定時総会に引き続き開催された研修会では、日本技術士会東北支部事務局長の川端輝男氏、株式会社豆の板垣代表取締役板垣公一氏(山形大学名誉博士)のお二方を講師にお招きしてご講演を頂きました。さらに後半の交流会では、今年新たに3名の新入会員を迎えて懇親と交流を深め、和気藹々のうち終了しました。

#### 平成21年度定時総会議案

期 日 平成21年7月3日(金)

場 所 山形グランドホテル

総 会 次 第

時 間 13:30～14:50

1 開会の挨拶 安彦副会長

2 会長挨拶 本田会長

3 来賓祝辞

山形県文化環境部学術振興課

科学技術政策主幹 後藤紀夫 様

(社)日本技術士会東北支部

事務局長 川端 輝男 様

4 入退会者紹介

小島総務部副部会長

5 議 事

1)議長選出(山形県技術士会規則

第9条の規定により会長が議長)

2)議事録署名人及び書記指名

(議事録署名人 齋藤三郎氏、

佐藤友彦氏 書記 坂井順一氏)

3)議事

第1号議案 平成20年度事業報告

第2号議案 平成20年度決算報告

一般会計・監査報告

第3号議案 平成21年度活動方針

並びに事業計画(案)

第4号議案 平成21年度予算(案

一般会計

6 閉会の挨拶 三森副会長

#### 研修会次第

時間 15:00～17:00

講師 (社)日本技術士会東北支

部事務局長 川端 輝男 氏

演題「公益法人化と県技術士会」

平成21年6月25日 平成2

0年度社団法人日本技術士会定時

総会が開催されました。そこで、新

しい定款が承認され、平成22年3

月を目処に「公益法人 日本技術士

会」の認定を目指すこととなりました。

川端氏は本部常設委員会政策委

員会の委員として、新定款の作成過

程に携わってきており、政策委員会

の活動内容と県技術士会の関係に

ついて講演していただきました。ま

た、平成15～18年の4年間、山

形県技術士会の江平会員も政策委

員会の委員として活動しておりま

した。

活動概要としては、日本技術士会が

「公益法人」を目指すことによる定

款、細則等の規定及びその他の制度

の変更についてである。今まで定常

的な開催が必要であった臨時総会

の省略、今後の会員数の増大を想定

した総会定足数の変更、さらには、

府県単位等の地域的な組織設置が

的確に行えるよう規定の変更等に

ついての説明がありました。

最後に、第36回技術士全国大会

が仙台で開催されることから、山

形県の技術士が積極的に参加してい

ただくことをお願いがありました。

講師 (株)豆の板垣 代表取締

役社長(山形大学名誉博士)

板垣 公一 氏

演題 「星さがしの半世紀」

山形市在住の豆の板垣の社長で、

天文学者で、山形大学名誉博士の板

垣氏は、新天体ハンターとして知ら

れ、超新星発見数の国内最多記録を

持っております。中学生時代から趣

味として新天体の搜索を始められ、

49個の超新星を発見しており、小

惑星に「イタガキ」と命名されたも

のもあります。

板垣氏は、とても話し上手であり、話を聞いているうちに中学生の頃の自分と向き合った方も多くいたと思います。小遣いで顕微鏡を買うか望遠鏡を買うかまよった話などは、貧しかったあの時代、誰もが同じような経験をしたと思います。

今回の講演の内容は、「豆屋のおやじがNASAを動かす」、「台湾大学で発見された超新星の間違いの指摘」、「イギリス学術雑誌ネイチャーに共同投稿されたこと」とどの内容も、氏の実経験談がほとんどであった。最後まで熱心に聞き入ることができたのは、氏の人柄が、とても人を引きつける魅力をもたれたすばらしい人であるからだと思います。時間がゆるすならもっと聞きたいと思ったのは、私だけではないはずです。

また、7月19日の山形新聞に50個目の超新星を発見したことが記載されておりました。これからも、国内最多記録を更新することを期待しております。



(研修会風景 板垣公一氏)



(懇親会風景 土生名誉会長)

## 平成21年度 事業活動計画表

平成21年 7月

主な項目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
本 会 1 役員会 2 定時総会 3 事務局会議				7/3									必要に応じて開催
総 務 1 部会 2 定時総会 3 部会交流会議				7/3									
企 画 広 報 1 部会 2 技術士たより・名簿発行 3 対外広報活動 4 ホームページ委員会													必要に応じて開催
技 術 部 会 1 部会 2 総会研修会 3 現場研修会 4 技術教養講座 5 技術士受験研修会	4/24			7/3									
支 部 1 役員会(幹事会) 2 定時総会 3 研修会等				6/3									随時開催

## 技術士試験を振り返って

(株)結城測量設計コンサルタント 菅 勝 美 (建設 部門)

私が技術士試験で最も印象に残ったのは、口頭試験を終え、重圧から解放されフォーラム8の外に出た時に、冬の12月だということに渋谷に吹く暖かい風が、緊張の汗を爽やかに乾かしていく瞬間でした。

「ああ、終わった。」合否に関係なく、とにかく試験会場の重苦しい異次元のような空間から、早く解放されたかっただのを覚えている。

制度改正前から一次試験を経て、技術士二次試験に挑戦して5回目にして辿り着いた口頭試験であった。試験制度改正後の口頭試験の合格率は、私が挑んだ建設部門「道路」では概ね70～80%で4人に1人が口頭試験で涙を吞んでしまう。

初めて口頭試験に臨む私は、試験官からの質問内容への不安や、「もうすぐ技術士に手が届く」というところまで来て、口頭試験に不合格となれば、筆記試験から再度挑戦しなければならない。という言いようのないプレッシャーを抱えていた。

前日に、千葉の姉の家に泊めてもらい口頭試験に備えていた。姉の家

に寄るのは5年ぶりであった。2年前に姉の義母が亡くなった時に行くことが出来なかったため、義兄と墓参りに出かけた。

夜は、ひさしぶりにお酒を飲み、家族のことや昔の話、そして明日の技術士試験のことなどを語り合った。

当日の朝、庭に出てたばこを吸った時に震えがくる。私は不安をかき消すように何度も庭を回り、口頭試験の経歴や技術的体験論文、想定される質問に対する回答などを反芻していた。この時点で作成していた原稿は必要なくなっていた。

試験時間は午後4時45分、お昼に千葉の姉の家を出発し渋谷に向かう。「ハチ公」さんと初対面。日曜の午後のため、大勢の人を掻き分けフォーラム8に到着。そして控室へ。

試験時間5分前に試験室の前の椅子に着席する。

覚悟が決まり、思いのほか冷静で頭がクリアな状態であった。

試験官に呼ばれ入室、そして経験したことのない緊張の45分間を体験させていただいた。

3月6日合格発表、官報で合格を確

認した瞬間、大きな安堵感と、これからの技術士としての責任の重さを同時に感じた。

技術士試験を振り返ると、初受験から6年の月日を要した。「長かった。」

日々の業務に追われ受験勉強が停滞した時期があったが、技術士試験に挑戦することで、自分の業務に対する課題や、問題点、解決方法などの視点に変化が見られるようになった。

そして、技術士となった今、「自分の能力が倍にアップ」しただけでなく、企業内の技術士として担当業務の責任を負い、日々の業務に誠実に取り組み、企業における核となれるよう自己研鑽を行うことにより、社会資本整備の一端を担いたいと考えています。

最後に、今年度、山形県技術士会に入会いたしました。これからも、諸先輩の技術士の皆様のおかげで指導をよろしく願いいたします。

## 倫理観について思う

松田 栄一（総合技術監理・建設 部門 元山形県技術士会理事）

倫理という言葉が、多方面においていろいろな形で使われているような気がするので、私なりの感想をまとめてみた。

広辞苑によれば、倫理とは「人倫」であり「道徳」であり、「人と人の間の秩序」であると書かれている。

要するに、人として生きていく上で守らなければならない約束事といえる。

人が人としての意識を持ち、人としての自覚に基づく行動を始め、結果を認識できるようになり、倫理という概念を持てるようになるまでにはそれなりの時間が必要だったのでないだろうか。人が倫理という概念を、何時、どのような形で持ったのだろうか。まず考えられることは、生物である「人」は、生きる（生きていく）ためにという事を考えたことだろう。

生きていくためには、「口」を養わなければならないし、そのためには、動植物の生命を頂くという行動をとらなければならない。行動という事は字のとおり、行う、動くで、人と人が「ばらばら」に行動したのでは食材を得るに効率が悪い。家族内にあっ

ては、長幼の序がなければ家庭内がまとまらない。などが経験として活かされ、人と人のつながりが生まれ、人と人との間の決まり事が定まってきたことだろう。

また、人口が増えるにつれ生活に必要な物質の入手や、生活手法が、個人・家庭の枠を越えて考えて動いた方が効率的だという経験則を見出し、そのためには集団の中でまとまった行動をとり、より良い効果を得るには、ある程度の決まり事があった方がよいということに気が付いたことだろう。

このような時代までは、人と人のつながりをお互いに律し合う形で生活を支え合ってきたと思っている。更に時代が下がり、人口が増え、人の住む地域が広がるに連れ、人の世（社会）の仕組みが複雑化し、人々の生活思想が多様性を持つようになると、手仕事から機械化（工場生産）へ、物々交換から貨幣世界へと、工業化、商業化と進むに連れ、人としての価値観、道徳観も変化し、現在に至っていると思っている。

このような社会情勢の変化に伴う時代の要請として、人と人との間に培われてきた倫理観のみでは、律しきれ

ない事態に対応した倫理観が求められ、夫々の集団、組織が取り組んできたのが企業倫理であり、資格者職業倫理であり、職能団体の倫理等が生まれてきた。夫々の資格者や団体が、夫々の倫理思想を持って、社会や人々に対応することになったのであり、我々の属する技術士会の倫理観もその一つといえるだろう。

前記のような倫理観について概括すれば、人間が本来持つ倫理観と、時代の要請に伴う倫理観が夫々独立し、補完しあって人々の生活を支えてきたといえるだろう。なお、倫理的に言えば二つの立場があり、前者が永遠不変なものとして捉えている立場にあるのが人倫の道であり、後者が時代と社会的要請による変化もあり得るといえる立場をとるものと言える。（広辞苑より）。

私事ですが、私は土木技術者として土木学会に入会しており、学会員として、「土木技術者の倫理観」の遵守を求められている。

当会会員の諸兄も同じような立場におられることとされているが、倫理という言葉を変えて考えてみたことを書いてみた。

## 山形県技術士会平成20年度秋季現場研修会・北東3支部技術士交流研修会および

## 山形県理科支援活動報告

山形県技術士会事務局 井上 憲治（建設部門）

## 1、秋季現場見学会（夕日の丘農園）

食文化研修の最後は、大江町本郷にある夕日の丘農園にての銀杏栽培であった。園主橋間史紀男氏の案内で、事務所そばにある収穫が始まったばかりの小高い銀杏山に登った。2.5町歩の山に1,000本の銀杏樹が植樹され、7割の成木から収穫できるといふ。黄色味がかつた銀杏がたわわに実っている。樹木は上に伸ばさず、さくらんぼと同様に取りやすいように横に伸ばしてある。消毒も肥料もいらず、剪定と下草刈のみという手間のかからなさ、魅力であろうか。市街地やお寺にある銀杏と違い、数多くの食用銀杏のうち、粒が大きい「久寿」という品種ということであ

る。小高い山からは、遠く朝日連峰が眺望でき、まさに夕日の丘農園の命名が頷ける。

事務所そばのプレハブには果肉剥き器があり、電動にて初期の洗濯機のように刃形が回転し、果肉をそぎ落とす。昔の芋の皮むきを桶でやってたのと同じ原理とみた。熟す前に収穫するため、果肉を落としても一切匂いはしない。さらに網袋に入れ、現代の洗濯機に入れると綺麗な銀杏になるという。

製品は県内は勿論、東北、関東方面に出荷している。市街地等の銀杏は1ヶ1.5g程度であるが、農園のものは3gあり2倍の質量を誇る。今年の収穫目標は、4 tとのことで、山形県民全

員が1ヶづつ食べられる量に相当する。

それにしても園主橋間氏の決断に敬意を表さざるを得ない。中央のゼネコンを50代に見切りをつけ、銀杏栽培に目をつけ、経営と栽培のノウハウを身に付け、故郷の地に山の購入、植樹を進め、定年60歳後に収穫を迎える周到さに恐れ入る。大変なご苦労もあつたと聞くが、農園経営に至る勇気と決断は個人的な能力のなせる業か。県内でも稀な銀杏農園を見学し、貴重な体験であった。

この日は他に、東根市でワサビ栽培に取り組む大富農産と、寒河江市の日東ベスト株式会社を見学。

## 2、北東3支部技術士交流研修会で三森副会長講演

第1回北東3支部技術士交流研修会は、平成21年3月13日新潟市の技術士センタービルで開催された。今回のテーマは「里山・里海～海は山の恋人 川は仲人 里海、里山を考える」で、東北支部から里山に造詣の深い三森技術士が要請を受けて講演をしました。

「里山の保全と草木塔」と題して講演しましたが、北海道支部、北陸支部の皆様にはあまり馴染みのない言葉のようでした。三森講師は今話題の天地人、置賜地方、上杉家の話を交えながら、草木塔にまつわる神霊、自然界、歴史について触れ、巧みな話術で興味を誘いながら話され好評を博しました。

県士会からは、本田会長はじめ3名が研修会、交流会に参加し、3支部の技術士と交流、懇談しました。会場となった技術士センタービルは、北陸支部長の自社コンサルビルだそうで、中山支部長から命名のいきさつや支部長職22年の話を聞き、意気込み、力量、手腕に感じさせるところがありました。

講演は、北海道支部2件、東北支部2件、北陸支部2件の全6件の発表がありました。

## 3、山形県理科支援事業で会員3名が講義

平成19年度から山形県技術士会は、科学技術の振興を目的とする「理科支援事業」(対象:小学校高学年,山形県教育センター主管)、「サイエンス・ナビゲータ事業」(対象:小学生から大人まで全般,山形県学術振興課主管)に支援協力するために、個人登録を行ってきました。

このたび、平成21年度に山形県教育センターからの要請で安彦宏人技術士、松田企一技術士、遠藤真哉技術士が講義を行いました。

講義内容は次表のとおりです。技術士会代表として、今後益々の活躍を期待しております。

日本技術士会では平成20年度から全国的に支援活動を推進、展開するようになりましたが、山形県ではこれまで単発的に土生技術士、江平技術士、本田技術士、鈴木多賀技術士、安彦技術士、宍戸技術士が実施しております。この支援事業が全国的な展開となったので初めて本部へ報告しました。今後この種の支援実績があつた場合は、事務局への報告をよろしくお願いします。

—以上—



(秋季現場見学会 夕日の丘農園)



(北東3支部研修会 三森副会長)



## 平成20年度 科学技術コミュニケーター・理科支援 活動実績

実施先県と場所	実施内容	対象・参加人員	実施期間・日数	支援形態	実施者	特記事項	新規・継続
山形県尾花沢市 牛房野小学校	雪の性質、自然観察、人工の雪霜柱、記録方法等屋内外で実施	6年生3人、4年生2人、3年生2人	1日	理科支援 特別講師	安彦宏人	複式学級	新規
山形県米沢市 三沢西部小学校	現在住んでいる地区の地形(河岸段丘)を3Dメガネで実感。	6年生8人 5年生8人	1日	理科支援 特別講師	遠藤真哉		新規
山形県高島町 二井宿小学校	小学校舎のボーリング調査の堆積物の成因を川の作用から調べる。	5年生13人	1日	理科支援 特別講師	遠藤真哉		新規
山形県高島町 二井宿小学校	食品の保存	6年生16名	1日	理科支援 特別講師	松田企一		新規
山形県酒田市 浜中小学校	食品の保存	6年生16名 5年生16名	1日	理科支援 特別講師	松田企一		新規

## 七五三掛（しめかけ）地区地すべり災害の現状について

河内 功（農業部門）

## 1 地域の概要

七五三掛地区は、鶴岡市の南部に位置し、森敦の小説「月山」の舞台となり、即身仏で有名な注連寺を中心に、7戸34名が暮らす中山間の集落です。

平成3年に農林水産省所管の地すべり防止区域（区域面積225ha）に指定され、山形県が地すべり防止工事を実施してきました。

## 2 地すべりの経過と現状

2月25日に住宅のコンクリートに亀裂が発生しているとの通報を受け、現地調査を行い、道路面を含む多数の亀裂を確認するとともに、観測を開始しました。

4月7～8日には観測値が2mm/hrを越えたため、4月9日に3戸、4月17日に2戸に自主避難を要請し、現在も避難生活を余儀なくされています。

地すべりは、市道大綱・越中線付近を冠頭部に、猫谷川と刈谷川に挟まれた幅約400m、長さ約700mの規模となっています。

GPS観測で、日水平移動速度は4月下旬から5月下旬に100mm以上を観測し、最大では150mmを超える値を記録しました。

なお、観測開始からの累計移動量は、地点によっては6mを超えています。しかし、7月4日以降は日水平移動速度が1mm未満に低下し、日雨量52mmを記録した7月9日にも移動速度に変化は見られませんでした。

## 3 緊急地すべり対策工事の概要

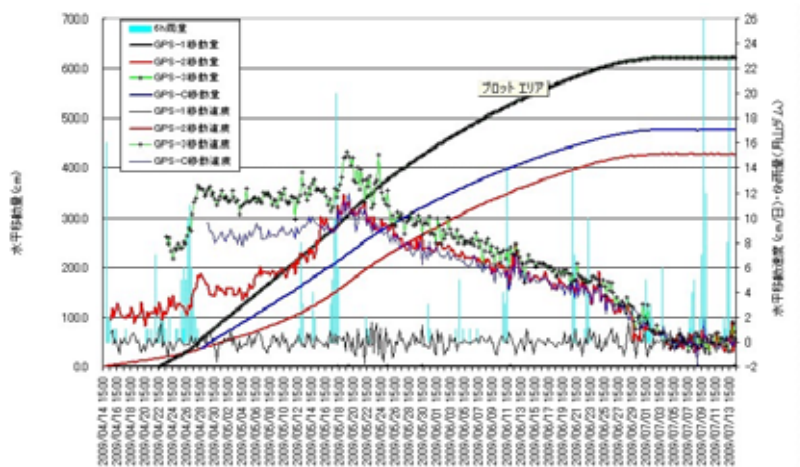
緊急地すべり対策工事は、地表水および地下水の排除を目的に、4者（農林水産省、国土交通省・庄内総合支庁農村整備課・河川砂防課）が連携して実施しています。

主な工事内容は以下のとおりです。

- ・ディープウェル工（150～200mmの井戸を掘削し、水中ポンプで排水）
- ・集水井工（集水井の新設及び既設集水井への集水ボーリングの追加）
- ・水抜きボーリング工（地表から直接の集水ボーリング）
- ・地表水排除工（既設用排水路の装工）
- ・河川流路工（猫谷川、刈谷川の管路化と流路の変更）

## 4 あとがき

ようやく地すべりも鎮静化して来ましたが、訪れるたびに大きく変貌している地域の状況に、自然の力の偉大さを思い知らされています。私の拙い報告でその一端でもご理解いただければ幸いです。



特別寄稿 高等専門教育の現状と課題

鶴岡工業高等専門学校准教授

山形県技術士会理事 宍戸道明

誰がために技術者を育てるのか…小生は研究開発をはじめとする“ものづくり”の視点から産業界へ関わってきた。

そして新たな教育の現場へとそのフィールドを移して早や5ヶ月を経ようとしている。本稿においては、「技術士 宍戸道明」の教育に対する忌憚ない意見を書き綴ってみたい。

### 1. なぜに高専なのか

知る人はまだ少ないと思う。実は小生、現在技術士事務所での活動を一時休止し鶴岡高専で教鞭をとることを生業とした。理由は幾つかある。ひとつ答えるとするならば、「小生を必要としているところでその要求に応える」となるであろうか。とにかく、顧客の要求を満たす“ものづくり”の実務から指導へと変わった業務が、今度は“ものづくり”を知らないエンジニアの卵をインキュベートする事になったのである。

### 2. 教育機関における「技術士」

「博士は重箱の隅っこをつつくような仕事」と揶揄される事が多いが、JABEEの関係でこの「博士」を有することが教育に携わる際のひとつの要件であるらしい。赴任後、技術士が評価されていない、と思えることをあちこちで感じた。大学や高専は、「技術士」の名称を知っていてもそれはどういうものなのか、を深く知らない教員は多い。知らないのだから評価されなくても仕方が無いのかもしれないが、評価の対象になるのは、技術士ではなく専ら工学博士のほうである。

ある学生に旨の内を吐露された。「高専は面白くない。先生たちも、難しいことばかり言って、授業がわからない」と。かつての自分がそうだった様に、いやそれ以上に学生は先生を見ている…。そもそも研

究遂行のスキルと教育スキルは全く別物であり、「難しいことを理解できる頭の良い先生」が良い学問の教授を行えるとは限らない。前述の学生のように、幼いころに抱いた“ものづくり”に対する興味を萎えさせず、『ものづくりを習得してゆくことがどれだけ興味深くどれだけ楽しいか』、その楽しさが先にたたなければ応用能力や独創性、創造性など培えようがないのである。そして“ものづくり”とは、作って喜び、売って喜び、書いての満足を得てこそ喜べるものであり、それを知るからこそ眼前の苦勞から逃避せずに立ち向かえる。「感動」を知らない人間に「感動」を伝えることなどできょうか。教え子たちの卒業後の生き様が私の教育者としての真の評価であり、こちらを真摯に受け止めたい。

### 3. 学生の資質向上策

一昔前の学生と違い、今の学生は何かが違う…。時代が変われば年代間の思想はいつの時代も変わる。戦中戦後の方々は団塊の世代を、それらの方々は次の年代を…と言うように。

鶴岡高専の学生は来客に対し、きちんと挨拶ができるということで評判が高い。20～25年前の校内暴力全盛時代とは違い、見れば優等生な彼ら（彼女ら）である。そんな彼らに対して危機感を感じた部分がある。どちら様を見ても同じような人間を見ているようで、個性を抑圧されているというか、型にはまっているというか。

時代背景も大きく様変わりしたこともその原因に考えられるのかもしれない。食料自給率40%以下でありながら金さえあれば何でも手に入れられる食料、日本でもはやされてきた大量生産、大量消費、大量廃棄の“使い捨て文化”、一箇所ところに居て、情報が簡単に手に入る通信網、軽率に行動し失敗すれば簡単に“リセット”できている人生観、そして孤独に苛まれ、自分自身を“リセット”してしまおうと言う短絡的思想など。国際化の流れ

を受けて様々なものが規格化されたりしているが、日本には日本に培われた風土や文化、国民性など、他国に類を見ない美しい特色がある。そういう意味では世の中、便利すぎて何かを失いつつある感が否めない。自動化、効率化、省力化などは技術発展の至上命題であるが、必要以上の“便利さ”を享受しつづけると、いわゆる“ゆでガエル”状態に陥っていることすら気づけない。

赴任して20年ぶりに学生寮で食事をとった。大変質素で物足りない。この食事を取っているときに己の自堕落な食生活に気づいた。ビールを控え、タバコを控え、適度に運動する必要性を省み、まずは己の姿勢を正そうと自身を戒めているところである。

### 4. まとめ

思うところが多々あり、乱文にて失礼した次第である。高専は女子学生も増え、とまどう事もしばしばである。大学とは違い、人間として多感な時期を迎えた彼らにエンジニアの“道”をどのように導くべきか、自身が答えを見出せていない部分もある。ただ、ひとつ言える事、「学校で宍戸先生にこっぴどく叱られた（殴られた）。でも、あの時に叱られて本当に良かった」と思われる教師像、それが私の理想である。



(宍戸研究室でのヒトコマ)



山形県技術士会

## 豊かな地域社会の創造に技術士の活用を

山形市松波四丁目12-3  
 (株)田村測量設計事務所内

電話 023(642)6644  
 Fax 023(642)6654

### 山形県技術士会の趣旨

山形県技術士会は、会員の品位と資質を向上し、高度化、総合化等が進展する近時の科学技術に関する業務を行う者として、名実ともに社会的地位を保つよう、会員相互の連絡・協力・研修等を通して、技術者の指導・育成、技術士業務の普及・啓発を行うことを目的としています。

### 山形県技術士会の事業活動

- (1) 技術士要覧、会員技術士名簿の発行及び技術士受験研修会、講演会などを開催し、技術士制度並びに技術士資格の活用・普及・啓発、その他の事業を行っています。
- (2) 技術士の社会的地位向上のための活動及び各種情報の提供を行っています。
- (3) 現地見学会や会員研修等を通して、会員相互の技術の向上、啓発、研修に関する事業を行っています。
- (4) 会員、社団法人日本技術士会並びに同会東北支部との連絡と協力に関する事業を行っています。
- (5) 各種講習会、セミナー等への講師派遣及び各種分野の技術指導に関する事業を行っています。

#### お知らせ

巻頭言で本田会長もふれておりますが、10月15日、16日の両日仙台国際センターにおきまして第36回技術士全国大会(仙台)が開催されます。隣県で開催される技術士全国大会でありますので、多数の会員のご参加をお願いいたします。



### 編集後記



小規模水力発電 視察風景  
 平成21年7月24日(金)

7月21日に衆議院が解散し、8月30日の投票日に向けて、各党熱い選挙戦がスタートしました。このたよりが届く頃には、日本の新しい政局がスタートしていることと思います。

6月に麻生総理大臣より、京都議定書後の二酸化炭素削減の中期目標について、2005年比で15%を目指す発表があったのも記憶に新しいところです。ただ、8%とか15%とかの数のマジックよりも、国民がどのように今後の環境問題に取り組みばいいのか、次の政府には道筋をはっきり示して欲しいものです。

7月24日に、山形県技術士会夏季現場研修会が開催されました。今回は「新庄最上のイノベーション」と題して、産廃処分場や小規模水力発電、大規模園芸農場を視察・研修させて頂きました。特に、新庄市土内地区でNPO東北地域エネルギー開発機構が取り組んでいる小規模

水力発電は、単に環境に優しいエネルギー開発を目指すというだけではなく、衰退している中山間部集落の地域振興に大きく貢献するシステムとして期待され、まさに最上イノベーションにふさわしい内容でした。現地視察のあと、旧土内分校を利用した土内公民館で、山形大学の村松先生より、これまでの試行錯誤のご苦労や、小規模水力発電の将来像についてご講演を頂き、大変感銘を受けました。最後に質疑応答の時、参加された技術士の皆さんから、日本の総人口も含めた日本の将来像のあり方について、活発な意見が出され、大変盛り上がりしました。専門技術の技術士ではありますが、技術のみを追うのではなく、社会全体のシステムを、大局的な目を持って考えていくことが大事だということ、大変印象づけられた一日でした。

(tysima)